

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム笑みの里

目標達成計画

作成日: 平成 31年 3月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束適正化における書類の整備がいき届いていない。	身体拘束適正化に関する書類を整備します。	指針の整備、委員会の議事録整備、研修会の報告書整備、新入社員に向けた身体拘束研修の整備を行います。	12ヶ月
2	33	当法人が特養を持っている為、重度化になると特養へ移行されることが多い。それにより笑みの里の職員は重度化への対応や終末期の対応に不安がある職員が多い。	重度化しても終末期も笑みの里で暮らすことができる。	早い段階で重度化への見極めを行い、ご家族やご本人と話し合いのを設け、終末期を笑みの里でとの希望の際には、職員会議の場で、事業所としてできることを話し合いご利用者、ご家族の意向に添えるようしていきます。	12ヶ月
3	44	便秘ぎみのご利用者が多数おり、お通じ改善の食材も検討、実施しているが、最終的には下剤に頼らざるえないのが現状である。	下剤に頼らず排便ができる。職員がご利用者の排便に意識を持つことができる。	職員会議の場で職員がそれぞれにお通じ改善対策案を持ち寄ることで、認知症には排便コントロールが大事なことを職員が意識することができ、また持ち寄った対策を精査し実施していきます。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。